

# 中学校 社会科 歴史的分野 学習指導案

指導者 宮本 英征

**日時** 平成28年10月15日(土) 第1限(9:30~10:20)  
**場所** 第1社会科教室  
**学年・組** 中学校1年B組 42人(男子21人, 女子21人)  
**単元** 平安時代を考える～歴史の経験を通して～

## 指導計画(全3時間)

第一次 藤原道長の政治 1時間  
第二次 藤原道長に返歌を送ろう 1時間(本時)  
第三次 藤原道長についての語りを評価しよう 1時間

**題目** 藤原道長に返歌を送ろう

## 本時の指導目標

1. 摂関政治における権力者として藤原道長を説明するだけでなく、道長の平凡さや優しさなどの人間性を踏まえ、肯定的あるいは否定的にそのイメージを判断し、生徒自身の道長像を語るができる。
2. 「望月の歌」についての他者の語りを分析することで、道長に多様なイメージが結びつくことに気がつかせる。
3. 藤原道長に対するイメージを生徒が個々に判断し、「望月の歌」に対する返歌を作成し、グループで発表する。

## 本時の評価規準

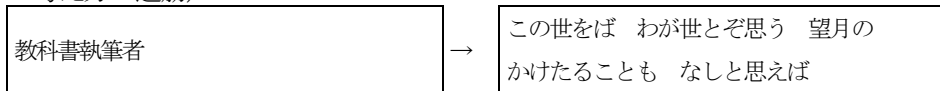
- ① 課題「藤原道長に返歌を送ろう」「そのように返した理由を書こう」
- ② ルーブリック

評価	評価規準の内容
4	藤原道長を肯定的(否定的)に判断し、そのイメージを結びつけて説明できている。
3	藤原道長の、能力の高さ、平凡さや優しさなど学習したイメージを結びつけて説明できている。
2	藤原道長に関する歴史的な事柄に基づいて説明できている。
1	望月の歌に関係する返歌にはなっている。
0	記述なし。

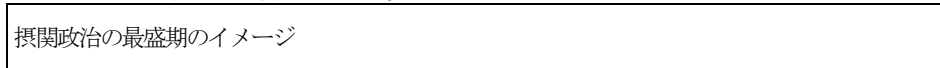
## 本時の学習指導過程

- 藤原道長の「望月の歌」の場面A・Bを生徒に実演させ、クラスで何が異なるかを考える。
- A「望月の歌」が摂関政治で権力を掌握した藤原道長の思いをあらわすものとして示され、道長の政治能力の高さを評価している場合。
- B「望月の歌」が、藤原道長の平凡さをあらわすものとして示され、道長の人間性や運の良さを評価している場合。
- Aの場合の記述として教科書の説明を示し、Bの場面の記述として永井路子『この世をば』を示す。教科書執筆者と永井氏の記述を以下のようにツールミン図式で分析させる。

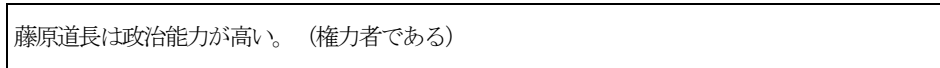
(Aの考え方の道筋)



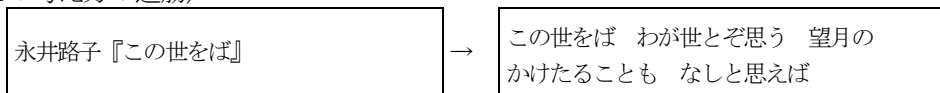
どのような目的で道長の歌を紹介したのか。



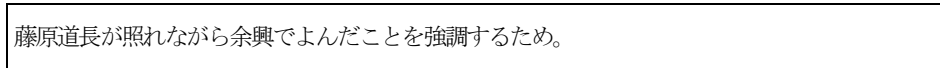
なぜ、そのようなイメージを強調したのか。



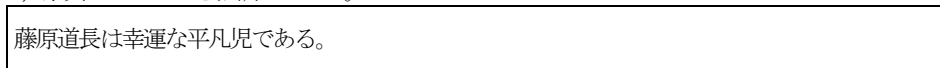
(Bの考え方の道筋)



どのような目的で道長の歌を紹介したのか。

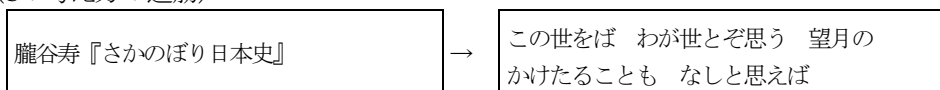


なぜ、余興だったことを強調したのか。

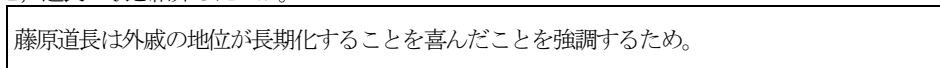


- 藤原道長をどのように評価するか考えさせる。また、臈谷寿の「望月の歌」の取り上げ方も紹介し、多様な道長像にふれさせる。

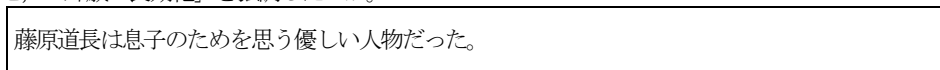
(Cの考え方の道筋)



なぜ、道長の歌を紹介したのか。



なぜ、「外戚の長期化」を強調したのか。



- 藤原実資になって、「望月の歌」に対する返歌を作成し、グループで発表する。

**\* 当日資料にて詳細を提示**